

旅行者の安全確保のための空き家活用による 善根宿開設に始まる防災ネットワーク構築への試み

代表 藤井 容子（香川大学創造工学部 助教）

〔研究報告要旨〕

四国遍路の「善根宿」と呼ばれる無料の宿泊所は長期の遍路で経済的負担が多い遍路者を支援するお接待文化の象徴といえるが、テントを張って野宿する遍路者も多いことから、今後想定される巨大地震等の災害に向けた旅行者の安全対策は重要課題であるが、旅行者への防災対応は不十分である。加えて、四国4県の空き家率は高い水準にあり、空き家が善根宿として活用できるなら、空き家活用による地域資源の有効活用につながり、また、善根宿が遍路者（旅行者）の災害時避難所にもなることから、空き家活用による善根宿（避難小屋）開設に始まる防災ネットワーク構築（四国遍路各所での善根宿開設）の可能性を探る。

本研究は、遍路者のニーズ調査や善根宿調査等の現状調査および善根宿開設プロジェクトとアクションリサーチから成る。その結果、以下の事柄が明らかになった。

- ①四国遍路での宿泊先は民宿が圧倒的に多いが野宿も一定数みられる。また、善根宿開設で対象となる安価な宿に泊まる遍路者の特徴は、単独での利用傾向にあること、男性の割合が圧倒的に多いこと、短期間の遍路行程が外国人に多いこと、等が分かり、これらのニーズに対応した善根宿の開設が望ましい。
- ②善根宿の全体的傾向では、良好な場所に立地していること、料金は無料が多く有料でも極めて低料金であること、また、空き家や空き室が活用されており、遍路者と運営者双方のプライバシー確保と生活動線交差への対応が不可欠と考えられる。
- ③善根宿に求められる空間デザインでは交流場所の確保や個室・和室の配置があり、備品（家具・家電）では寝床へのパーティション設置は不要だがWifiは必須である。
- ④善根宿開設プロジェクトでは、四国霊場86番札所・志度寺所有の空き店舗を改修し、近年増加傾向にある訪日外国人の歩き遍路向けの善根宿を開設した。ただし、店舗の劣化が著しく大幅な予算上の上積みをしたことからクラウドファンディングを実施し目標金額を超えることができるとともに、種々のテレビ放映や新聞掲載を受けた。
- ⑤アクションリサーチでは、幅広い業種とのコラボレーションが実現されて企業活動が今後の防災教育に貢献できる道筋をつけるとともに、マスコミ各社の報道によって事業内容が広く県民に周知されて防災意識の向上が図られ、併せて、公的組織の支援があったことから市の広報誌に事業が告知される等、スムーズな支援を受けることができた。

以上、本研究における善根宿開設は遍路者・札所・地域住民にとって有益と考えられることから、今後、資金面での課題の解消および設計から開設までの一貫した空き家の活用がなされることによって、善根宿の開設と地域の活性化がネットワーク化すると同時に空き家問題の解消につながると考えられ、空き家活用等による善根宿開設に始まる防災ネットワーク構築の可能性に確かな手応えを感じた。